



The 34th Annual Meeting the Japan Society for clinical Anesthesia 2014
日本臨床麻酔学会第34回大会

イブニングセミナー1

術前経口炭水化物 負荷の意義



日時

11月1日(土) 17:40-18:40

会場

グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
第4会場(暁光)

座長

諏訪 邦夫 先生

帝京短期大学 専攻科 臨床工学専攻 教授

演者

横山 武志 先生

九州大学大学院 歯学研究院

口腔顎顔面病態学講座 歯科麻酔学分野 教授



共催

日本臨床麻酔学会第34回大会
ネスレ日本株式会社 ネスレヘルスサイエンスカンパニー



Nestlé Health Science
NOURISHING PERSONAL HEALTH



イブニングセミナー1

術前経口炭水化物負荷の意義

近年、ERASの概念が徐々に浸透して、麻酔科学会でも術前絶飲食ガイドラインが定められました。クリアウォーターであれば2時間前までの飲水が認められています。しかし、ERASで絶飲水時間を短縮させる本来の目的は、補水ではなく、炭水化物を術前に負荷することで、栄養状態を維持し、術後のインスリン抵抗性を軽減することです。

残念なことに、現在の日本ではこの本来の意義が一部で失われています。つまり、術前の飲水が脱水症患者に対するOral Rehydration Therapy (ORT) と混同され、安全性という名目で、消化管からの吸収や胃からの排泄速度に議論が集中しています。また、実際に多くの施設では、本来の目的からはずれたORT用の飲料が使用されています。

脱水状態にない場合には、摂取した水分のかなりの部分が速やかに体外に排泄されます。つまり、経口補水は、のどの渇きを癒すだけの存在になります。補水よりも炭水化物負荷が重要であり、そのためどのような飲料が適しているかを考える必要があります。

今回は、代謝への影響や水分の動態などを踏まえて、臨床的に意義のある術前経口炭水化物負荷について解説致します。

